<災害性腰痛事案報告書の記載例>

災害性の原因による腰痛の認定にあたっては、下記のいずれの要件も満たすことが必要とされています。

- ① 腰部の負傷又は腰部の負傷を生ぜしめたと考えられる通常の動作とは異なる動作による腰部に対する急激な力の作用が、公務遂行中に突発的なできごととして生じたと明らかに認められるものであること。
- ② 腰部に作用した力が腰痛を発症させ、腰痛の既往症を再発させ、又は基礎疾患を著しく増悪させたと医学的に認めるに足りるものであること
- ③ 医学上療養を必要とするもの

災害性腰痛事案報告書は、その災害性の有無（上記下線部のようなできごとの有無）を判断するために必要となる書類であり、被災職員が作成し、記名してください。

なお、作成にあたっては、次の点に注意してください。

1 腰痛発症時の状況

「取扱重量物」、「作業内容等」及び「腰痛発症時の具体的状況」をできる限り具体的に（必要であれば別紙として）記載してください。特に、「腰痛発症時の具体的状況」は、災害性の有無の判断にあたり非常に重要となりますので、予想外の出来事やアクシデント、通常とは異なる動作の具体的状況について可能な限り詳細に記載してください。

2 療養の状況

「腰痛発症時の痛みの状況」、「医療機関における治療の状況」、「現在の痛みの状況」、「治ゆの見通し又は治ゆ年月日」については、主治医からの指示等を含めながら記載してください。

3 腰痛の既往歴

今回の発症以前の腰痛の経験の有無等について、できる限り詳細に記載してください。

なお、医療機関を受診せずに売薬等で済ませた場合も、あわせて記載してください。

災害性腰痛事案報告書

被災職員	所属	〇〇市〇〇部〇〇課
	氏名	神奈川 太郎

出来るだけ詳細に記載してください。
記載しきれない場合には別紙を用いてください。

腰痛発症時の状況	(1) 取扱重量物
	① 名称 自動車用蓄電池（バッテリー）
	② 大きさ 縦〇〇cm、横〇〇cm、高さ〇〇cm
	③ 形 長方形
	④ 重量 約46kg
	⑤ その他 把手がなく、持ちにくかった。
	(2) 作業内容等
	① 作業内容 バッテリーを電気室のバッテリー置き場の棚から運搬車まで運んでいた。
	② 作業姿勢 バッテリーの底部に両手をかけて持ち上げ、抱えるような形で、中腰前傾姿勢で運んでいた。
	③ 作業時間 1回の作業時間は約5分、腰痛発症はこの作業開始後、約10分後である。
	④ その他 この作業は通常は同僚職員が行っていたが、この日は、その職員が休みだったため、被災職員が行ったものである。
	(3) 腰痛発症時の具体的状況
	<p>〔 軽いと思ったら予想外に重かった若しくは重いと思ったら意外に軽かったというような予想外の出来事、滑ったり、転んだり、バランスを崩したりというようなアクシデント、腰を急激に捻る等の急激な動作又は通常とは異なる特別な動作等があった場合には、その具体的状況を必ず記載してください。 〕</p> <p>バッテリーを運搬車まで運び、下ろそうとしたとき左足先が運搬車の車輪に躓き、バランスを崩して前に倒れそうになると同時に思わずバッテリーを落としそうになったが、バッテリーを壊してはいけないと、両手を前方に伸ばした姿勢のままバッテリーを支え、腰を精一杯曲げた状態で必死に踏んばったところ、その瞬間に腰部に「ギクッ」という衝撃が走り、その場に倒れてしまった。しばらくの間痛みのあまり動くこともできなかった。</p>